

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

家庭 高校

領域を5つに再編し、中学校では独立した教科に

10秒でいうと ホームプロジェクト等を各領域の「生活の課題と実践」に。家庭総合に新F領域を追加

高校家庭科も、領域を5つ（家庭総合は6つ）に再編する方向です。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動は、各領域の中の「生活の課題と実践」（仮称）に位置付け直す方向です。家庭総合には、新しいF領域「総合生活実践」（仮称）を設ける案です。家庭基礎と家庭総合の役割の違いもはっきりさせる方向です。家庭総合の履修年次も柔軟にする方向です。

1 ホームプロジェクトは「生活の課題と実践」に

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動は、形だけになっているとの声もあるとされました。そこで、独立した領域ではなく、各領域の中に「生活の課題と実践」（仮称）として置く方向です。名前は「個人探究」「協働探究」（いずれも仮称）とし、家庭基礎・家庭総合の両方で行います。 P224 P228

授業では 食生活の学習のあとに、各自が家庭の朝食の課題を選んで改善を試す「個人探究」を組み込む、といった計画が考えられます。

2 家庭総合に新しいF領域「総合生活実践」

家庭総合には、新しいF領域「総合生活実践」（仮称）を設ける案です。「福祉」「子育て」「防災」「生活文化」「環境」など、5つの領域を貫くテーマの方向性を設定します。ホームルームでテーマを決め、生徒が自ら課題を考えて問題解決的な学習を行う方向です。 P227 P232

授業では 「防災」をテーマに、非常食の調理や家具の固定などを領域をまたいで調べ、地域に提案する学習が考えられます。

3 家庭基礎と家庭総合の役割を分ける

家庭基礎は、自分の生活を営み、家庭や地域の生活を支える力を育てる科目と整理されています。家庭総合は、それに加えて生活を多面的にとらえ、地域の生活を向上させる力を育てる科目です。食生活では、家庭基礎は調理実習、家庭総合は調理実験を通した科学的な理解で整理する方向です。 P227 P231

授業では 家庭総合で、加熱時間を変えて野菜の色や食感を比べる調理実験を行い、理由を科学的に説明する授業が考えられます。

4 履修の柔軟化とデジタルの活用

家庭総合を複数の年次に分けて履修させる場合に「連続する2か年」とする今の規定は、柔軟な教育課程の妨げになるとして見直す方向です。住生活では、家庭総合で3Dを使って住まいを計画する内容とします。調理や製作の様子を動画で撮って分析するなど、端末の活用例も示されています。 P224 P228 P232 P233

授業では 3Dで間取りを作り、高齢の家族も暮らしやすい住まいを計画して、段差や動線について意見を交わす、といった授業が考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 領域をA～Eの5つに再編（「家庭総合」はFを加えて6つ） P225 P230 P231
- 内容の移管・統合：住まいの働きや家庭内事故は高校へ、金銭管理は中学校へ P226 P227 P232
- 布を用いた製作・衣服の再利用の扱いを整理 P226 P232
- 高校：ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動が「生活の課題と実践」（仮称）に P223 P228
- 「家庭総合」に新しいF領域「総合生活実践」（仮称） P227 P232
- 「家庭基礎」と「家庭総合」の役割をはっきり分ける P224 P227 P231 P232
- 「家庭総合」の履修年次を柔軟に P224 P228
- 社会の変化に合わせて充実する内容（高齢者・健康・お金・生活文化） P225 P231 P232

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。